

相愛女子短期大学学生の音楽に関する意識と実態調査について

Ideas and Actualities : A Report on Students' Interests in Music at Soai College

依 藤 里 子

I はじめに

現在の我々の周辺には、種々雑多の音楽が氾濫している。本稿では、学生の意識と実態を知るために、音楽に対する興味と関心について調査を行った。以下、調査結果を提示しながら、学生と音楽の関わりを検討してゆきたい。

II 調査の概要

調査期間 昭和 62 年 7 月 1 日 ~ 10 日
調査対象 相愛女子短期大学学生 573 名
調査内容 下記のアンケートを実施した。

- (1) 家庭内でいつも音楽が聞こえますか
- (2) 音楽が聞こえてくると安らぎを感じますか
- (3) 音楽を聞きながら勉強をすると勉強に没頭出来ますか
- (4) 音楽は好きですか
- (5) 音楽に興味を示した理由は何ですか
- (6) 両親は音楽が好きですか
- (7) 音楽に没頭したのは何歳の時ですか
- (8) 両親や兄弟姉妹と歌を歌いますか
- (9) 友達と歌を歌いますか
- (10) カラオケで歌いますか
- (11) 楽器を演奏することが出来ますか
- (12) 演奏出来る楽器は何ですか
- (13) 歌ったり楽器を演奏したり出来て楽譜が読めますか
- (14) 音楽をどのような機器で聞きますか
- (15) コンサートに行きますか
- (16) どんな音楽を鑑賞するのが好きですか

III 調査結果と考察

日常生活において、まず、家庭内の音楽的雰囲気、及び物心両面から見た音楽の必要性について、問(1)～(3)まで質問をした。結果は、次のとおりである。

表1 家庭内でいつも音楽が聞こえる

①	はい	31.1%	178名
②	いいえ	68.6%	393名
③	無回答	0.3%	2名

表2 音楽が聞こえてくると安らぎを感じる

①	はい	94.9%	544名
②	いいえ	5.1%	29名

表3 音楽を聞きながら勉強をすると勉強に没頭出来る

①	はい	46.8%	268名
②	いいえ	50.3%	288名
③	無回答	3.0%	17名

家庭内でいつも音楽が聞こえると答えた学生は、聞こえないと答えた学生の約2分の1である(表1)。このことから、ただ、惰性で音楽に浸っているのではないことが窺える。しかし、学生にとって音楽が聞こえてくるとは、心に安らぎを感じる手段であり(表2)、また、音楽が周囲のあらゆる雑音を遮り、物事に集中して取り組むことが出来る環境を作り出す方法のひとつであると考えられる(表3)。

では、音楽そのものの嗜好と、それが最も顕著に表われた時期、及び先天的、後天的に受けた影響について、問(4)～(7)までの質問をした。結果は、次のとおりである。

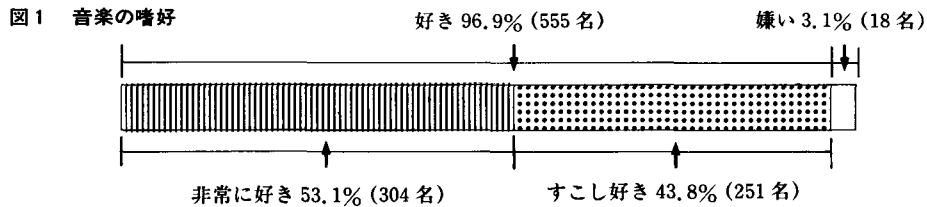


表4 音楽に興味を示した理由

①	両親、兄弟姉妹の影響を受けて	12.4%	71名
②	流行の音楽にひかれて	20.1%	115名
③	先生の影響を受けて	2.1%	12名
④	友達の影響を受けて	35.6%	204名
⑤	趣味で習っていて	11.7%	67名
⑥	楽器が身近にあったから	18.2%	104名

相愛女子短期大学学生の音楽に関する意識と実態調査について

表5 両親の音楽嗜好

① 好む	77.1%	442名
② 好まない	21.6%	124名
③ 無回答	1.2%	7名

表6 音楽に没頭した年齢

① 6歳まで	4.0%	23名	26.7%	153名
② 6歳～9歳まで	8.0%	46名		
③ 9歳～12歳まで	14.7%	84名		
④ 12歳～15歳まで	24.1%	138名	72.9%	418名
⑤ 15歳～18歳まで	27.1%	155名		
⑥ 18歳～現在	21.8%	125名		
⑦ 無回答	0.3%	2名	0.3%	2名

図1でもわかるように、ほとんどの学生が音楽を好んでいる。このように、音楽好きの学生が音楽に興味をもった理由は、友達の影響と、時々流行した音楽に刺激を受けたことがあげられる(表4)。これに加え、両親の音楽好き(表5)も見逃すことは出来ない。また、これまでに興味が最も顕著に表われた年齢は、10代後半の15歳～18歳である(表6)。

これまでの音楽を聞くことから、演奏することに触れてみたい。まず演奏を、歌うことと楽器演奏のふたつに分けて考えた。はじめに、歌うことについて問(8)～(9)までの質問をし、次のような結果を得た。

表7 両親、兄弟姉妹との歌唱頻度

① いつも歌う	11.9%	68名	67.9%	389名
② ときどき歌う	18.5%	106名		
③ たまに歌う	37.5%	215名		
④ 全く歌わない	31.8%	182名	31.8%	182名
⑤ 無回答	0.3%	2名	0.3%	2名

表8 友達との歌唱頻度

① いつも歌う	2.4%	14名	14.5%	83名
② ときどき歌う	2.3%	13名		
③ たまに歌う	9.8%	56名		
④ 全く歌わない	78.9%	452名	78.9%	452名
⑤ 無回答	6.6%	38名	6.6%	38名

表9 カラオケの利用頻度

① いつも歌う	13.4%	77名	74.3%	426名
② ときどき歌う	23.2%	133名		
③ たまに歌う	37.7%	216名		
④ 全く歌わない	22.9%	131名	22.9%	131名
⑤ 無回答	2.8%	16名	2.8%	16名

相愛女子短期大学学生の音楽に関する意識と実態調査について

歌唱を複数で歌う場合・単数で歌う場合に分けて考えた。前者で、歌うことのある家族は、全く歌わない家族の約2倍になった(表7)。しかし、友達同士は、あまり歌を歌うこともなく(表8)、家族で歌う場合と逆の結果となった。後者のカラオケは、流行の影響を受けて「たまたまに歌う」と答えた学生を含め、「歌う」と答えた学生は、高い数値を示した(表9)。しかし、カラオケで歌う場所・目的・頻度については、今後さらに調査を進めてゆきたい。

楽器演奏については、今回は単に演奏出来る楽器の有無と、その楽器の名称をたずねるに留めた。問(10)～(13)までの質問をし、次の結果を得た。

表 10 演奏出来る楽器の有無

①	は い	67.7%	388名
②	い い え	30.9%	177名
③	無 回 答	1.4%	8名

表 11 演奏出来る楽器名 (複数の回答を含む)

ピ ア ノ	49.6%	284名
電 子 オ ル ガ ン	13.3%	76名
ギ タ ー	5.9%	34名
リ コ ー ダ ー	5.9%	34名
ハ ー モ ニ カ	3.0%	17名
琴	2.6%	15名
ト ラ ン ペ ッ ト	2.4%	14名
オ ル ガ ン	1.7%	10名
ク ラ リ ネ ッ ト	1.4%	8名
フ ル ー ト	1.4%	8名
ド ラ ム	1.4%	8名
キ ー ボ ー ド	1.4%	8名
ア コ ー デ ィ オ ン	1.0%	6名
三 味 線	0.7%	4名
ホ ル ン	0.7%	4名
ヴァイオリン	0.5%	3名
トロンボーン	0.5%	3名
オーボエ	0.2%	1名
サクソフォーン	0.2%	1名
無 回 答	33.2%	190名

表 12 楽器演奏出来る学生の読譜

①	は い	63.2%	362名
②	い い え	6.3%	36名
③	無 回 答	30.5%	175名

楽器を演奏出来る学生は、表10で示したように、67.7%にのぼり、楽器を演奏出来ない学生の約2倍となった。演奏出来る主な楽器は、最もポピュラーなピアノ・電子オルガン・ギ

相愛女子短期大学学生の音楽に関する意識と実態調査について

ター、次いで、小学校の音楽教育の影響もあって、リコーダーとなった。その他の楽器は表11で示した。それぞれの楽器は趣味で演奏されることが多く、18歳～19歳の10代後半に、最も頻繁に演奏されることがわかった。さらに、直接演奏に関することではないが、演奏が出来、尚且つ、読譜が出来る学生は63.2%もあった(表12)。しかし、実際の演奏に際しては、耳に頼っている面が多い。

このように、音楽好きの学生が、音楽を聞く方法として、オーディオ機器による場合と、コンサートに出掛け、生の音楽を聞く場合の二点に絞ってたずねた。それに加え、鑑賞する音楽の種類も把握するために、問(14)～(16)の質問をし、次のような結果を得た。

表13 音楽鑑賞の機器

①	テレビ	25.0%	143名
②	ラジオ	20.9%	120名
③	テープ	31.1%	178名
④	レコード	23.0%	132名

まず機器は、テープが最も多く利用されていて、次にテレビ・レコード・ラジオの順となった(表13)。

テープについては、テープに録音する元の状況、及び利用頻度、音質についてたずねた。結果は、次のとおりである。

表14 テープに録音する元の状況

①	録音済のものを購入する	9.1%	52名
②	レコードから録音する	71.0%	407名
③	ラジオから録音する	15.0%	86名
④	テレビから録音する	1.6%	9名
⑤	生演奏を録音する	1.9%	11名
⑥	無回答	1.4%	8名

表15 テープの利用頻度

①	頻繁に聞く	72.3%	414名	100%	573名
②	ときどき聞く	23.9%	137名		
③	たまに聞く	3.8%	22名		
④	全く聞かない	0%	0名	0%	0名
⑤	無回答	0%	0名	0%	0名

表16 音 質

①	大へん気になる	31.4%	180名	93.0%	533名
②	少し気になる	61.6%	353名		
③	気にしない	7.0%	40名	7.0%	40名

テープに録音する元の状況は、表14で示したように、ほとんどがレコードから録音してい

る。次いで「ラジオから」、「録音済のテープを購入」という順になった。テープの利用頻度は、72.3%が頻繁に利用している(表15)。「ときどき」、「たまに」を加えると、全員が使用していることになる。このように、再生音楽ばかりを聞いている場合の音質に対する関心は、「少し気にする」61.6%で最も多く、「大べん気にする」31.4%を加えると、93.0%が音質を気にしていることになる(表16)。その気持の表われとして、75.0%がステレオ音響で聞いている。テープで音楽を楽しむ傾向にあるのは、操作が簡単で、安価で手軽に購入出来るところにあると思われる。

テレビはテープに継ぐ利用状況であるが、テレビで見る主な音楽関係の番組と利用頻度は、次のような結果となった。

表17 テレビで見る主な音楽関係の番組視聴率(複数の回答を含む)

夜のヒットスタジオ(関西)	45.0%	258名
ザ・ベストテン(毎日)	33.0%	189名
M. T. V.(朝日)	12.9%	74名
歌のトップテン(読売)	9.1%	52名
ミュージックステーション(朝日)	3.0%	17名
ミュージックトマト(サン)	1.7%	10名
N響アワー(NHK教育)	1.7%	10名
POPベティハウス(サン)	1.4%	8名
題名のない音楽会(朝日)	1.2%	7名
ミュージック・フェア'87(フジ)	0.7%	4名
ザッツミュージック(NHK総合)	0.5%	3名
名曲アルバム選(NHK総合)	0.2%	1名
みんなのうた(NHK総合)	0.2%	1名
ビデオジャム(朝日)	0.2%	1名

表18 音楽番組を見るためのテレビの利用頻度

① 頻繁に見る	17.6%	101名	94.6%	542名
② ときどき見る	51.5%	295名		
③ たまに見る	25.5%	146名		
④ 全く見ない	3.8%	22名	3.8%	22名
⑤ 無回答	1.6%	9名	1.6%	9名

テレビで見られる音楽関係の番組は、ロック界の超大物を聴かせる「夜のヒットスタジオ」や、新しい歌、流行の音楽による「ザ・ベストテン」が上位を占めている。しかし、クラシック関係は、中程で漸く顔を見せる程度である(表17)。利用頻度は、「たまに」を含めると94.6%になり(表18)、予想通り高い数値となった。

レコードについても利用頻度を質問し、次の結果を得た。

表 19 レコードの利用頻度

① 頻繁に掛ける	2.8%	16名	81.3%	466名
② ときどき掛ける	30.2%	173名		
③ たまに掛ける	48.3%	277名		
④ 全く掛けない	18.2%	104名	18.2%	104名
⑤ 無回答	0.5%	3名	0.5%	3名

少しでも利用する学生を含めると、81.3%と高いが(表19)、レコードを購入しているか、借用しているかについては不明である。

ラジオについては、ラジオ、及びFM・AMの利用頻度についてたずねた。次のような結果を得た。

表 20 ラジオの利用頻度

① 頻繁に聞く	10.3%	59名	84.8%	486名
② ときどき聞く	31.6%	181名		
③ たまに聞く	42.9%	246名		
④ 全く聞かない	14.8%	85名	14.8%	85名
⑤ 無回答	0.3%	2名	0.3%	2名

表 21 FM・AMの利用

① F M	42.9%	246名
② A M	27.4%	157名
③ 両方で聞く	29.7%	170名

表 22 ラジオの音響

① ステレオ	67.5%	387名
② モノラル	31.1%	178名
③ 無回答	1.4%	8名

ラジオは、84.8%が利用しているが(表20)、ラジオの中でもFMの利用が多く、次いでFM・AMの両方を利用している場合が多い(表21)。前者は、67.5%がステレオ音響で聞いている(表22)。

さらに、オーディオ機器についての結果は、次のとおりである。

表 23 オーディオ機器(複数の回答を含む)

① ラジオカセット	66.8%	383名
② ステレオ	51.3%	294名
③ ラジオ	8.9%	51名
④ テープレコーダー	29.5%	169名
⑤ レコードプレーヤー	24.1%	138名

オーディオ機器は、ラジオカセットが最も多く利用されている(表23)。ラジオカセット

は、比較的安価で、ラジオとテープの両方に使用出来る。それに加え、音質も改善され、また、いつでも自由に選曲出来ることもあって、利用する学生が多くなったと考えられる。

次に、生の音楽の鑑賞については、コンサートに行く頻度と、各分野別の利用頻度をたずねた。結果は、次のとおりである。

表 24 コンサートへ行く頻度

① 頻繁に行く	1.4 %	8 名	93.4 %	535 名
② ときどき行く	14.8 %	85 名		
③ たまに行く	77.1 %	442 名		
④ 全く行かない	6.6 %	38 名	6.6 %	38 名

表 25 クラシックコンサート

① 週1回	0 %	0 名	10.1 %	58 名
② 2週1回	0.2 %	1 名		
③ 月1回	1.9 %	11 名		
④ 年1回	8.0 %	46 名		
⑤ ほとんど行かない	89.9 %	515 名	89.9 %	515 名

表 26 歌謡曲ショー

① 週1回	0 %	0 名	36.5 %	209 名
② 2週1回	0.5 %	3 名		
③ 月1回	2.8 %	16 名		
④ 年1回	33.2 %	190 名		
⑤ ほとんど行かない	63.5 %	364 名	63.5 %	364 名

表 27 演歌ショー

① 週1回	0 %	0 名	0.9 %	5 名
② 2週1回	0 %	0 名		
③ 月1回	0.2 %	1 名		
④ 年1回	0.7 %	4 名		
⑤ ほとんど行かない	99.1 %	568 名	99.1 %	568 名

表 28 ロックコンサート

① 週1回	0 %	0 名	29.1 %	167 名
② 2週1回	0.9 %	5 名		
③ 月1回	4.2 %	24 名		
④ 年1回	24.1 %	138 名		
⑤ ほとんど行かない	70.9 %	406 名	70.9 %	406 名

コンサートへは、93.4%の学生が出掛けており(表24)、生の音楽を楽しんでいる。各分野別の頻度は、クラシックでは、わずか10.1%の学生がたまに行く程度で(表25)、ほとんどが行かない。歌謡曲ショーは、他の分野より最も高く、36.5%となった(表26)。演歌ショーは、演歌そのものが若い年齢層に好まれず、クラシックより低い数値となった(表27)。ロッ

クは、歌謡曲に次ぐ頻度の高さであり(表28)、若い人達がロックを好む傾向にあることが顕著に窺える。表24では、「たまに行く」と回答した学生の数値が高くなっているが、過去に一度でも行ったという場合も含んでいると思われるが、いずれの分野においても、実際にはあまりコンサートには行っていないようである。理由として、オーディオ機器の発達がひとつの原因と考えられる。しかし、どのような優れたオーディオ機器でも味わうことの出来ない、演奏者が醸し出す雰囲気、微妙な表現等、生の音楽に勝るものはなく、一度でも多く生の演奏に触れることを期待したい。

鑑賞する音楽の好みは、次のとおりである。

表29 音楽の好み(複数の回答を含む)

ニューミュージック	78.2%	448名
歌謡曲	77.8%	446名
映画音楽	61.3%	351名
コマーシャルソング	49.0%	281名
ロック	48.9%	280名
ディスコ・ミュージック	42.8%	245名
フォークソング	20.8%	119名
シンフォニー	15.9%	91名
マンガ主題歌	10.8%	62名
ミュージカル	10.1%	58名
演歌	7.7%	44名
シャンソン	3.3%	19名
ラテン	1.0%	6名
邦楽	1.0%	6名

それぞれ、あらゆる条件によって音楽の好みも異なるが、18歳～19歳の学生は、最新流行の音楽に興味を持ち好むようである。最新流行の音楽としては、ニューミュージック、ロック、ディスコ・ミュージックが挙げられる。さらに、好まれる音楽の双壁として、歌謡曲を忘れることは出来ない。歌謡曲は、あらゆる層に最も好まれる音楽であり、日本の大衆音楽を代表するものである(表29)。

IV おわりに

本稿では、学生の音楽に関する実情を把握するために、音楽に対する興味と関心について調査し、調査により学生と音楽の関わりをみてきた。その結果、さらに深く研究を進めるための多くの課題を与えられたので、今後も調査を進めてゆきたい。音楽は大衆の音楽であれ、娯楽であれ、生活を豊かにし、心に潤いを与えてくれるもののひとつである。本学学生も、音楽に興味と関心をもってくれることを期待する。

参 考 文 献

- 梅本堯夫著 『音楽心理学』 誠信書房 (1981)
NHK放送世論調査所編 『現代人と音楽』 日本放送出版協会 (1982)
大西敏雄編 『週刊TVガイド』関西版 (株)東京ニュース通信社 (1987)